

# もうすぐ発表会！

学年総主任

いよいよ今週末は発表会です。

先日園長から、発表会を通して育まれる子どもたちの姿について動画配信をいたしました。

今回は、その育ちについて少し具体的にお伝えしたいと思います。

「縄跳びを通しての学び」と「踊るといふ表現を通しての学び」についてご紹介します。

## 「〇〇ちゃんならできる！」と挑戦する仲間たち ～縄跳びシールに込めた願い～

1月中旬のある日、園庭での遊びを眺めていると

「がんばれ！あと少しだよ」

「大丈夫！もう一回やってみて」

「〇〇ちゃんならできるよ！数えてるからがんばって」と、

後ろ跳びに挑戦している子を数人の友達が応援していました。

担任の先生に聞いてみると、

応援している子達は、努力に努力を重ねていろいろな技ができるようになったから、“やればできるようになる！”こと“努力してできるようになるととっても嬉しい！”ことを知っているのだと。だからこそ一生懸命励まし応援しているのだろうと、嬉しそうに話していました。そんなことを担任の先生と話しているうちに「先生！先生！〇〇ちゃん後ろ跳び10回できたよ！シール貼って」と、まるで自分のことのように興奮して、教えにきてくれました。

年長の保護者の皆様もご存じの通称”縄跳びシール“

これは、ご褒美のようにも、出来ることを称えるもののようにも見えますが、私たちが数年前、“縄跳びシール”を用意したのは、新たなことに挑戦したり、友達と競い合ったり励まし合ったり、認め合ったり、あきらめずに努力したり、自信にしたり…など、縄跳びができるようになるまでの過程にある学びを大切に考えてのことでした。

できるようになってほしい技があるわけではないので、毎年、興味を持ち始めた子どもたちと一緒にチャレンジする技や回数を考え、チャレンジ表が出来上がっていきますし、月を追うごとに技が増えていきます。

子供たちにとって、キラキラしたシールへの憧れはとて大きいのです。

昨年の年長児の姿を見て、「シールがほしい」「縄跳びに貼ってほしい」と挑戦し始める子がいて、徐々にその興味はいろいろな子供たちに広がっていきます。

でも、一つのシールを得るのはそれほど簡単ではありません。



上手いかわなくて悔しい思いをしたり、何度も練習したり。でも出来なくて、プライドがあるので影（ご家庭）で練習したり、練習をやめて他の遊びをしたり。“できないから”とやらなかったり興味がなかったり。ここで大事なのが、先ほどのエピソードにもあったように、先生や友達の存在です。シールを用意しただけでは、私たちが願っていることは育まれないのです。

•そこで、先生は子どもたちにいろいろな声を掛けます。「おっ！この前より足が揃ってるね」「縄を回すのが上手くなって！」「あきらめない気持ちがかっこいいね」「わぁ！もう次は跳べるよ！」と、できるようになるまでの意欲や姿勢、小さな変化を認めて、できるようになる手前にある努力には大きな価値があることを伝え、支えていきます。

•また、先生たちは一緒に縄跳びをします。一緒に挑戦して「うわぁ、難しいね。もう一回やってみるね」「よし！今日は〇〇跳びやってみよう！」と、子どもたちの気持ちに共感したり、挑戦する楽しさを伝えたりしていきます。

•さらに先生たちは友達を巻き込みます。「ねえねえみてみて！〇ちゃん△跳びに挑戦してるよ」など声を掛けると、同じように頑張っている友達の姿をみた周りの子は「よし！私もやってみよう」と奮起したり、「すごいね！」と励ましたりするきっかけになります。

•たまには、先生たちは、見てないふりをします。ちょっとでもできるようになったところを見てほしいと、園庭の片隅で練習している子もいます。そんな時はその気持ちを汲み取り、声を掛けてくるのを待つこともあります。

•そしていよいよ出来た！となれば、周りの友達と一緒に思いきり喜び合います。こうして、今もなおいろいろな物語が生まれ子どもたちは多くのことを学んでいます。

“縄跳びシール”は、その学びのための一つのきっかけなのです。

また、それぞれに縄跳びの得手不得手はあっても、自分のいる場所から、一人一人が向上していく物語や挑戦を“見える化”するツールにもなっています。こうして、向上をめざす価値観にたった人間関係を育てていくのです。

これからも、日々、挑戦する子どもたちの姿を励まし支えていきたいと思えます。



## “踊るって楽しいな嬉しいな”から “気持ちがつながる心地よさ”へ

踊るという表現活動は、縄跳びの取り組みとは少し違ってきます。

表現の方法としてグーやパー、スキップなどはあっても、それができるようになるまでの学びというよりは、子どもたちの心や身体が、表現することに向かっていくこと、豊かな感性が育まれていくことが大切だと思います。

発表会に向けての“まとめの会”や“照明合わせ”は、年少から年長までのダンスを見ることができます。まさに、発表会当日のようなのです。

その踊る姿を見ていると、体で表現することの楽しさや気持ち良さからはじまり、表情から四肢の先まで気持ちを込めて踊ろうとする洗練された表現までの育ちを見ることができ、感動するばかりです。

年少さんは、曲のイメージに合わせてなりきっている子もいれば、「グーグーパー」との掛け声に合わせて全身を動かすことを楽しんでいる子、さらには自分の影が動く面白さを感じている子も。「パー」の動きも様々で、「パー」と言いながら体は動いていない子、肘が曲がっている子、横にピーンと伸ばしている子などなど。

そのどの姿もかわいらしく、とても愛おしいのです。それは、どの子も“楽しいな”“嬉しいな”と感じていることが分かるからです。

先生たちは「楽しかったね〜」「踊ったら気持ちよかったね〜」など、笑顔で共感していきます。発表会までの取り組みを通して、表現の楽しさを感じることができれば何よりだと考えています。

年中さんは、また少し違ってきます。

発表会の舞台のイメージがありますし、素敵な自分を見てもらう気持ち良さや認められる喜びも知っています。また、衣装を身にまとい曲のイメージに合わせて役になりきる楽しさを謳歌する時代でもあります。

周りのこともよく見るようになりますから、友達の表現を美しいと感じて真似しようとしたり、自分のほうがかわいいことを知ってほしくてとびきりの笑顔で踊ったりもします。“楽しいな”“嬉しいな”と感じることに加えて、友達と一緒に踊る楽しさを感じたり、友達よりも素敵になりたい！と切磋琢磨したりして、より豊かに表現しようとするようになります。

そして年長ともなると、私のつたない文章では子どもたちの豊かな表現を伝えることが難しく、語るより演技をみて感じていただくことが何よりだと思います。

頭の前からつま先までに意識を高め、気持ちを込めていることが伝わってきます。



全身を使って自分のイメージしたことを表現しようとしていたり、友達と一緒に息を合わせたりして、みんなで踊る喜びを感じています。

こうして、感じたことを表現しようとする豊かな感性や、友達と気持ちがつながる心地よさが育まれていくのだと思います。

ぜひ、舞台の上で踊る年少さんから年長さんまでの演目を、目を離さずにご覧ください。

たくさんの方が伝わってくると思います。



## 発表会当日は・・・

これまで子供たちは、発表会に向けて、音楽も体育もダンスも、どれも楽しみながら、イメージを描きながら、挑戦しながら、友達と一緒に力を合わせながら…と、いろいろな経験を積み重ねて取り組んできました。意欲も高まり、期待感もたっぷりにもっています。



当日は、張り切ったり、勇んだり緊張したり、わくわくしたりといろいろな気持ちがいろいろなかたちであらわれてくると思います。どれも、子供たちの一生懸命な姿です。たくさんの拍手での応援をお願いします。ご家族のもとへお子様が戻ってきましたら、笑顔で受け止め、たくさん褒めてくださいね。この当日を終えることで子供たちはいままでの学びを実感として身につけていくのだと思います。



「あ～楽しかった！また発表会やりたい！」と終わったそばから言い出すような会となるよう客席の皆様と教職員とで発表会を支えていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

